

実践報告

産褥期の外陰部痛を緩和するための補助具の検討
— 試用者のアンケートの分析 —

戸津 有美子 Yumiko Totsu* ・ 渡邊 香 Kaori Watanabe*

* 国立看護大学校 National College of Nursing, Japan.

【目的】褥婦が痛みの増強をきたすことなく快適に使用できる補助具を試作し、その使用感を検討することとした。

【方法】対象者の属性、従来の円座と試作 U 座を比較した使用感、感想・要望が記載できる無記名自己記入式質問紙を作成し、200 名の褥婦に配布した。

【結果】189 名より回答を得た。従来の円座と比較し、「着座時の外陰部痛」、「蒸れによる不快感」が「ない」、「少ない」と回答した者が多かった。「腰部に感じる負担感」については、大きな違いはなかった。「立ち上がりやすさ」については「とてもしやすい」、「しやすい」と回答した者が多かった。「授乳しやすさ」については大きな違いはなかった。

【考察】産褥期に使用する補助具には、適度な反発性や弾力性、通気性、耐久性等の条件が求められている。試作 U 座は、試用することにより外陰部痛の緩和、「蒸れ」の軽減につながっていた。今後は、さらに耐久面での工夫を行う必要がある。

キーワード : 産褥期、産褥 QOL、外陰部痛、U 座、褥婦

I. はじめに

分娩は会陰切開または、裂傷、会陰部の浮腫、痔核の発生といった外陰部の創傷を伴う。産褥期にある褥婦の多くは会陰部・肛門周囲の痛みを抱えながら授乳等の育児や日常生活動作を行っている¹⁾。これらの痛みを感じる時期は、頻回の授乳等で座る姿勢をとらなければならない時期でもあり、これらがさらなる痛みの増強につながっている²⁾。

褥婦の痛みを最小限にするためには、創部周囲の循環の保持、安静の保持等の対処が必要となる³⁾。この痛みを軽減する一助として、一般的に円座や産褥椅子等が使われてきた。しかし、これらは中央にあけられている穴により外陰

部のうっ血や皮膚の牽引が起こり、創傷の痛みや治癒、その他の痛みに対して悪影響があるという問題点が指摘されている⁴⁾。

従来から使用されている円座や産褥椅子といった各種の補助具は、ウレタン製やゴムで作成されているものが多い。現在、多くの病院で使用されているウレタン製の円座や産褥椅子は、安定感はあるが、材質が硬くて痛い¹⁾と言われている。また、ウレタンは低反発素材であり圧分散力が弱いため、座位姿勢をとる際に臀部の皮膚表面が牽引され創部への刺激を発生させていると推察される。ゴム製円座は、軽く持ち運びが可能であるが、空気移動が大きいいため不安定で体動時に痛みを増す¹⁾と言われている。

さらに、産褥期においては、悪露の排出がある。日本人の悪露の総排出量は300g前後であり、産褥4日までに赤色悪露として総量の3/4が排出される³⁾とされている。入院中、褥婦は常に30cm程度の産褥パッドを外陰部にあてて日常生活を過ごしており、外陰部に「蒸れ」が発生している。従来からの円座では通気性がなく、授乳などで長時間座位の姿勢をとった際にさらに「蒸れ」を増悪させていると考えられた。

そこで、従来からの円座の長所と短所を考慮して材質や形態を工夫し、長時間座位の姿勢をとらなければならない褥婦が、痛みの増強をきたすことなく快適に使用できる補助具を試作し、その使用感を検討することとした。

II. 試作U座の考案

円座を試作するにあたり、松浦ら¹⁾は円座の基本的条件として、①会陰部が直接あたらないように空間をつくること、②座った時に柔らかく感じかつ安定感があること、③手軽に持ち運びができ、どこでも使えること、④耐久性に富んでいることを挙げている。さらに、板野ら⁵⁾は、適度な硬さを保つ、U字型の円座の使用は疼痛の軽減につながると述べている。上記を踏まえ、株式会社和久和久が衛生学的、化学的検査済みの素材、三次元網状ファイバー[®]（以下、カルファイバー[®]）（パネフリ工業株式会社）（写真1）（表1）、V-Lap[®]不織布（帝人フロンティア株式会社）（写真2）（表1）、ダブルラッセル生地カバー（株式会社タナカガーゼ）を用い、検針のほか、体圧分散測定試験、重量試験等の試験を行い、除圧型の補助具を試作した。形態は、板野ら⁵⁾ならびに江渡ら⁶⁾の報告を参考にし、図1に示すU字型とした。U字型は円座とは異なり、座位時に大腿部が補助具に触れているため座位姿勢が安定し、空間があることから外陰部のうっ血軽減につながると考えた。数回の試作と・改良を重ねてU字型の除圧型座位補助具（以下、試作U座：写真3、

写真4）の作成に至った。この試作品を試用する。



写真1 三次元網状ファイバー[®]



写真2 V-Lap[®]不織布

表1 「試作U座」の構成素材

素材	
三次元網状ファイバー （カルファイバー）	素材：ポリプロピレン 100%
	構造：3次元ファイバースプ リング構造
	厚み：60mm 目付 2.8kg/m ²
V-Lap [®]	素材：ポリエステル 100%
	構造：V-lap 製法
	厚み：10mm 目付 150g/m ²



写真3 試作U座外観



写真4 試作U座断面
(上から、ダブルラッセル生地カバー、V-Lap®、カルファイバー®、ダブルラッセル生地カバー)

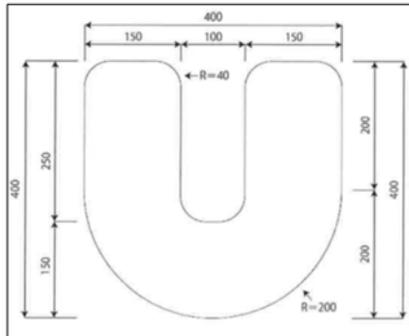


図1 試作U座寸法

III. 方法

1. **調査方法**: 対象者が病院で使用中の補助具（ウレタン製円座、以下円座）と試作U座とを試用し比較した使用感を、無記名式自己記入式質問紙（四肢択一式）を用いて調査した。
2. **調査期間**: 2018年3月～2018年5月
3. **調査内容**: 主な調査内容は、対象者の基本情報（年齢、初経産の別、妊娠中の腰痛の有無、痔核の有無、分娩様式、会陰切開・裂傷の有無、分娩後の体重、出生児体重）、試作U座の使用感（着座時の外陰部痛の程度、腰部に感じる負担、座位を維持した後の立ち上がりやすさ、座位での授乳のしやすさ、蒸れによる不快感の程度について等択一式）、感想・要望（自由記述）とした。
4. **対象者**: X病院にて、経膈分娩後、入院中の褥婦200名に質問紙を配布した。褥婦は下記条件を満たす者とした。
 - 1) 経膈分娩にて生児を分娩し、会陰裂傷

または会陰切開創がある褥婦

- 2) 分娩総出血量が500g未満の褥婦
- 3) 新生児の入院等で母児分離となっていない褥婦

5. 調査の実施

上記の条件を満たす対象者の分娩当日、または産褥1日目に質問紙を配布し、回答日時を制限せず退院時に回収を行った。対象者が円座またはU座を試用した期間はおよそ入院日数と同様の5～6日間である。円座またはU座は、両方を各入院中の部屋と授乳室に設置し、対象者に自由に試用していただいた。

6. 倫理的配慮

本研究は、「人を対象とする医学系研究に対する倫理指針」、「看護研究における倫理指針」を遵守し、研究者が所属する国立研究開発法人国立交際医療研究センター倫理委員会の承認（承認番号 NCGM-G-002376-00 平成30年1月10日）を得て実施した。さらに、アルテミスウィメンズホスピタルの倫理委員会の承認（平成30年1月29日）を得て実施した。

IV. 結果

対象要件を満たす200名の褥婦に質問紙を配布し、189名（回収率：94.5%）より回答を得た。

1. 対象者の概要

年齢は、 32.5 ± 4.1 歳であり、分娩後の体重は 59.1 ± 7.6 kgであった（表2）。

初産婦96名（50.8%）、経産婦93名（49.2%）であった。分娩様式は、自然分娩が161名（85.6%）、吸引分娩が25名（13.3%）、鉗子分娩が2名（1.1%）であった。会陰切開がある者は93名（54.4%）、ない者が78名（45.6%）であり、会陰裂傷がある者が122名（74.4%）、ない者が42名（25.6%）、産後に痔核がある者が44名（26.0%）、ない者が125名（74.0%）であった（表3）。

表2 対象者の概要 n=186

項目	
年齢	32.5±4.1
分娩後の体重	59.1±7.6

表3 妊娠・分娩の概要

項目	n	%
分娩経験		
初産婦	96	50.8
経産婦	93	49.2
分娩様式		
自然分娩	161	85.6
吸引分娩	52	13.3
鉗子分娩	2	1.1
妊娠前・中の腰痛の有無		
あり	127	67.6
なし	61	32.4
会陰切開の有無		
あり	93	54.4
なし	78	45.6
会陰裂傷の有無		
あり	122	74.4
なし	42	25.6
産後の痔核の有無		
あり	44	26
なし	125	74

2. 円座と比較した試作U座の使用感

着座時の外陰部痛に関しては、円座と比較し試作U座の方が外陰部痛が「ない」と回答した者が119名(63.0%)、「少ない」と回答した者が48名(25.4%)、「ある」と回答したものが19名(10.1%)、「かなりある」と回答した者が3名(1.6%)であった(図2)。

腰部に感じる負担感に関しては、「ない」と回答したものが33名(17.5%)、「少ない」と回答した者が60名(31.7%)、「ある」と回答した者が89名(47.1%)、「かなりある」と回

答した者が7名(3.7%)であった(図3)。

「蒸れ」による不快感に関しては、「ない」と回答したものが63名(33.3%)、「少ない」と回答した者が82名(43.4%)、「ある」と回答した者が43名(22.8%)、「かなりある」と回答した者が1名(0.5%)であった(図4)。

3. 円座と比較した試作U座の日常動作のしやすさ

授乳のしやすさは、「とてもしやすい」と回答した者は29名(15.5%)、「しやすい」と回答した者は65名(34.8%)、「しにくい」と回答した者は84名(44.9%)、「とてもしにくく」と回答した者は9名(4.8%)であった(図5)。

立ち上がりやすさは、「とてもしやすい」と回答した者は44名(23.3%)、「しやすい」と回答した者は82名(43.4%)、「しにくい」と回答した者は50名(26.5%)、「とてもしにくい」と回答したものは13名(6.9%)であった(図6)。

4. 円座と比較した試作U座の使用感の自由記載について

自由記載には68名の参加があった。自由記載の内容は、主に以下の通りであった。

「クッション性があり痛くない」15名、「弾力があり座りやすい」12名、「U型で大腿への圧迫がない」9名、「弾力があり立ち上がりやすい」8名、「通気性があり蒸れずに快適である」8名、「取手があり移動しやすい」8名、「軽い」5名、「厚みが欲しい」12名、「へたりが早い」5名であった。

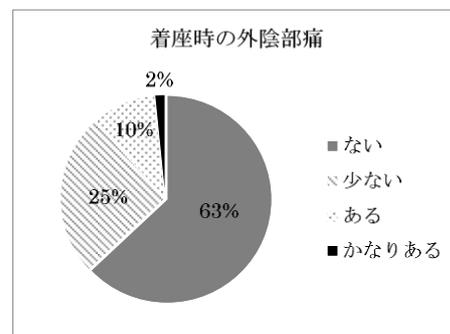


図2 着座時の外陰部痛

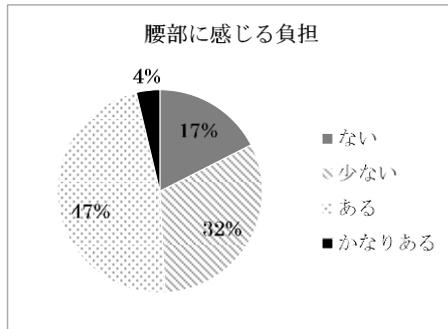


図3 腰部に感じる負担

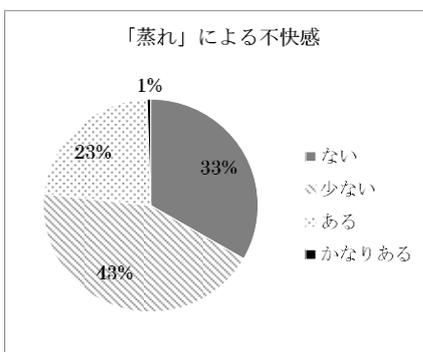


図4 「蒸れ」による不快感

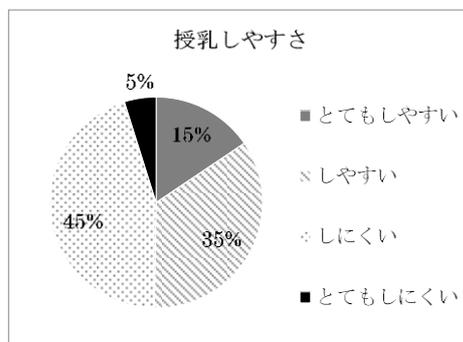


図5 授乳しやすさ

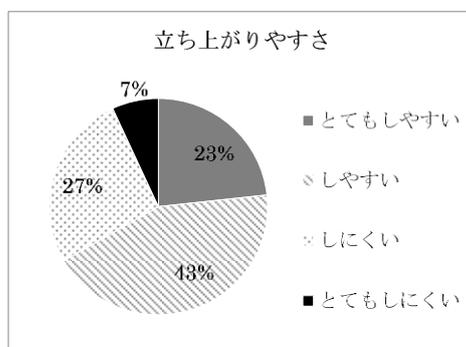


図6 立ち上がりやすさ

V. 考察

本研究に参加した対象者は、背景や分娩の概要より、現代の平均的な母集団といえる。円座と比較した試作U座の使用感に関しては、「着座時の外陰部痛」が「ない」、「少ない」と回答した者が多かった。これは、試作U座の構成素材に用いられている、カルファイバーが、三次元のファイバースプリング構造をしており、弾力性に富み高反発素材であるため、着座時に圧力が分散され外陰部痛が円座と比較して緩和されたと考えられる。また、「蒸れ」による不快感に関しては、「ない」、「少ない」と回答した者が多かった。試作U座の構成素材である、カルファイバー®、V-Lap®、ダブルラッセルカバーの3点すべてが通気性がよく、着座をして授乳を行う等、着座時間が長くでも「蒸れ」による不快感を感じるものが少なかったと考えられる。腰部の負担感に関しては、「ない」、「少ない」と回答したものと、「ある」、「かなりある」と回答した者の人数に大きな違いは認められなかった。腰部の負担に関しては、妊娠中から腰痛の症状がでていた者もあり、授乳姿勢や授乳時間等によっても負担感に変化する可能性があり、補助具の使用感の違いには反映されなかったと考えられる。

円座と比較した試作U座の日常生活動作のしやすさに関しては、「授乳しやすさ」に関しては、「とてもしやすい」、「しやすい」と回答した者と、「しにくい」、「かなりしにくい」と回答した者の人数に大きな違いはなかった。授乳姿勢は、様々な姿勢があり、「リラックスした姿勢がとれているか」や「授乳に慣れているか」、「児が乳頭を捕獲するまでの動作や時間」によっても、授乳のしやすさに影響を与えることが考えられ、授乳しやすさは補助具の性能には関係ないものとも考えられた。「立ち上がりやすさ」に関しては、「とてもしやすい」、「しやすい」と回答した者が、「しにくい」、「とてもしにくい」と回答した者よりも多かった。これは、試作U座の構成素材の1つカルファイバ

一®が弾力性、高反発性に優れているため立ち上がりやすいという感覚につながったと考えられる。

褥婦への質問紙調査の自由記載より、外陰部痛の緩和のために用いられる補助具には、適度な反発性と弾力性、通気性、耐久性等の複数の条件が求められることがわかった。反発性、弾力性、通気性に関しては、試作U座は択一式のアンケート結果からも、求められる条件を満たしていると考えられる。耐久性に関しては、「へたりが早い」、「厚みが欲しい」という記載が見受けられた。補助具の厚みが不足していると、創傷部位を試作U座の穴の位置に一致させて座位をとっても、創傷部位が底つきしてしまい痛みの発生につながる。試作U座の厚みは6cmであり、平均的な体重女性では会陰創傷部が底付きすることはないため、使用頻度や期間によって試作U座の厚みをだしているカルファイバー®が潰れてきたと考えられる。カルファイバー®の密度を高くする等の工夫を行い、耐久性を強靱なものとする事で、より快適な補助具を作成することができる。形状に関しては、U字型のために圧迫が少ないとの記載はあったが、U字型による創部の皮膚の牽引に関して記載はなく、質問項目も設定していなかったため評価はできなかった。さらに改良した時点で評価を行う必要があると考える。

VI. 結論

産褥期に使用する補助具には、適度な反発性や弾力性、通気性、耐久性など複数の条件が求められている。

試作U座は、反発性、弾力性、通気性の面で条件を満たしており、試用することにより、外陰部痛の緩和、「蒸れ」の軽減につながっていた。しかし、耐久性に課題を残すと結果となった。今後は、さらに耐久面での工夫を行い、改良をかさねていく必要がある。

謝辞：本研究にご協力いただきました皆様に感謝いたします。

利益相反：本研究において、報告すべき利益相反状態にある企業、団体はない。

受付 2019年3月24日

受理 2019年5月14日

文献

- 1) 松浦佳子,久保田美冴：産褥円座に関する研究—材質と形態からの考案—。神戸市立看護短期大学紀要,第7号：137-144,1988.
- 2) Reading AE,Sledmere CM,Cox DN et al:How women view postepisiotomy pain.Braith Medical Journal,Vol284:243-246,1982.
- 3) 北川真理子,山内和美編集：今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程改訂第3版：771,南江堂,2013.
- 4) 国立循環器病研究センター循環器情報サービス：[98]床ずれはどう防ぎ、どう手当てするか—褥瘡のケアで大切なこと—。2013,
<http://www.ncvc.go.jp/cvinfo/pamphlet/general/pamph98.html>,2019.3.11.
- 5) 板野ゆき子,早川有子,竹中美他：会陰切開を受けた褥婦の自然療法による看護,助産婦雑誌 53 (6)：514-521,1999.
- 6) 江渡綾子,山本真知子,東智子他：座位時の会陰縫合部痛の緩和を考える産褥円座の工夫.十和田市立中央病院研究誌,8 (1)：76-79,1993.